

石川県漁海況情報

404号
2018年6月14日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>
携帯電話 http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html



本号の概要

調査船白山丸のスルメイカ調査結果（期間:5月14日～22日）

- 日本海沖合ではスルメイカの分布量は前年および過去5年平均を下回りました。
- 魚体サイズは前年および過去5年平均より小さめでした。

小型いか釣りのスルメイカ水揚状況（期間:5月1日～6日10日）

- 水揚量は前年および過去5年平均を下回りました。
- 水揚げの半分を20尾入りと25尾入りが占めており、魚体は大きめでした。

水産総合センター・トピックス

- 「白山丸イカ釣り体験航海を開催しました!」「七尾湾の環境を測る」

調査船白山丸のスルメイカ調査結果（期間:5月14日～22日）

■ 調査船白山丸は5月14日から22日に能登半島沖から日本海中央部（大和堆南方海域）でイカ釣り操業を行いました。スルメイカの分布密度の指標であるCPUE（釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は舢倉島付近で17.9尾と高かったものの、日本海中央部では0.0～5.0尾と極めて低く、沖合にはスルメイカはあまり分布していないことが分かりました。本調査の平均CPUEは4.0尾であり、前年同時期平均（27.7尾）および過去5年同時期平均（22.1尾）を大きく下回りました。定点調査ではないため厳密に比較できませんが、今年5月のスルメイカの来遊量は前年および過去5年平均を下回っていると考えられます。本調査で漁獲したスルメイカの外套長（魚体サイズの指標）の平均値は17.1cmであり、魚体は前年（17.9cm）および過去5年平均（18.6cm）より小さめでした。

調査船白山丸イカ釣り調査結果

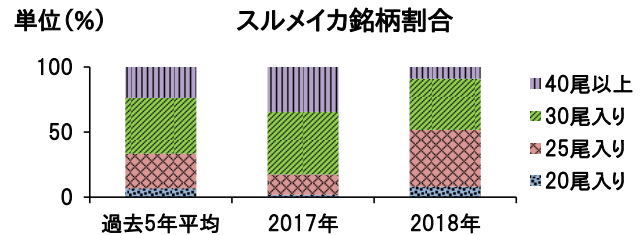
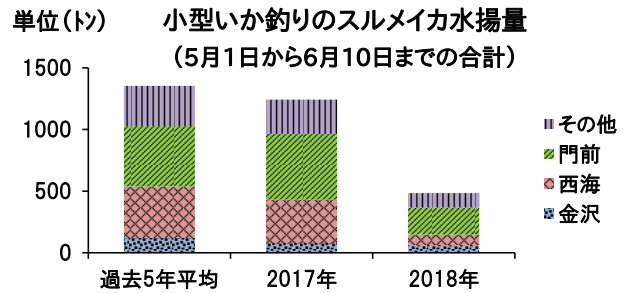
操業日	操業位置	漁獲尾数	CPUE	外套長範囲(主な魚体)	表面水温	50m水温
5月14日	37-59.5N, 137-02.5E	2,125	17.9	12～21cm(17cm)	15.2℃	13.15℃
5月15日	38-37.3N, 134-39.4E	61	0.6	10～18cm(15cm)	12.0℃	9.75℃
5月16日	39-02.5N, 134-02.8E	25	0.2	10～17cm(15cm)	13.2℃	8.62℃
5月17日	38-11.8N, 133-13.1E	625	5.0	15～22cm(17cm)	13.8℃	9.81℃
5月18日	38-08.9N, 133-56.0E	477	3.8	15～20cm(17cm)	14.1℃	10.37℃
5月19日	38-00.7N, 134-28.2E	2	0.0	14～15cm	12.4℃	7.55℃
5月20日	38-31.2N, 135-26.0E	56	0.5	13～19cm(15cm)	14.8℃	10.94℃
5月21日	38-53.7N, 136-21.5E	474	4.0	10～21cm(16cm)	16.7℃	12.64℃

CPUE:釣機1台1時間当たりの漁獲尾数、主な魚体:漁獲尾数の多かったイカの外套長

小型いか釣りのスルメイカ水揚状況（期間:5月1日～6日10日）

■ **小型いか釣漁船によるスルメイカの水揚げ**は後半に入っています。5月1日から6月10日の県内水揚量は485トンで、前年(1,242トン)および過去5年平均(1,354トン)を下回っています。水揚量は5月末から上向いてきましたが、それまでの不漁が影響し、前年の4割程度に留まっています。6月10日現在、主な漁場は輪島・珠洲沖にあります。

■ **銘柄(1箱当たりの入り尾数)別の箱数割合**をみると、今年は20尾入りと25尾入りが多く、前年および過去5年平均に比べて魚体は大きめとなっています。

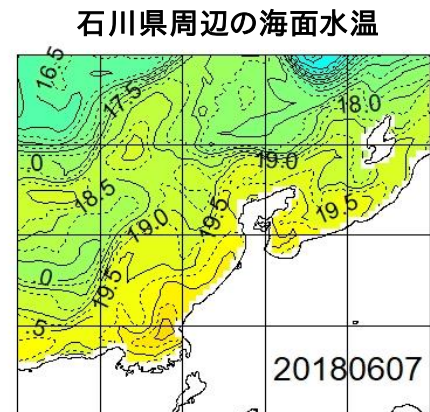


石川県周辺海域の水温（期間:6月3日～7日）

■ **沿岸の海面水温** 6月7日の本県周辺(海岸線より30海里程度)の海面水温は19～20℃台で、過去5年平均との差は±0.0～0.5℃程度でした。

■ **沿岸観測ブイの水温** 今期の水温は18.1～19.2℃で、5月下旬から約2.6℃上昇しました。前年同時期との差は-0.9～+0.6℃、過去3年平均との差は-0.6～+0.5℃でした。

■ **港内の水温** 今期の水温は19.1～22.1℃で、前年同時期との差は+0.3～+2.2℃、過去3年平均との差は+0.4～+1.5℃でした。



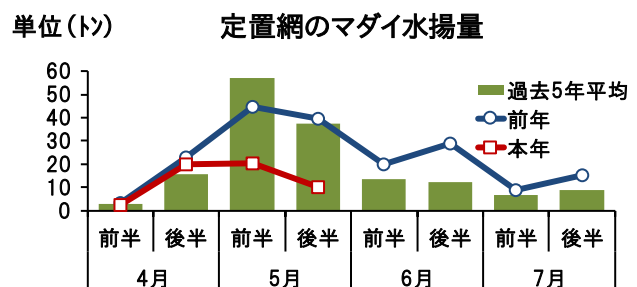
石川県主要港の水揚状況（期間:5月16日～31日）

■ **定置網** マダイは10トン水揚げされました。4月前半から5月後半までの累計は53トンで、前年(110トン)および過去5年平均(113トン)を下回りました。マイワシ・ブリ・ガンド・サバは前年を上回り、フクラギ・フグ類は前年並み、マアジ・サワラ・サゴシは前年を下回りました。

■ **まき網** マイワシ・サバ・カタクチイワシは前年を上回り、マアジは前年並みでした。

■ **底びき網・ごち網** アカガレイは前年を上回り、アマエビ・ニギスは前年並みでした。

■ **刺し網・釣り・その他** イワガキ・サザエは前年並み、ベニズワイガニ・ヤナギバチメは前年を下回りました。



集計期間 5月16日～5月31日 (水揚量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
定置網									
まいわし			0.0		2.2	73.3	186.1	261.7	0.5
ぶり	3.0		83.4	5.3	2.6	20.7	44.4	159.5	88.6
ふくらぎ・こぞくら	0.0		3.5	94.1	7.4	23.9	16.2	145.1	157.8
がんど			6.8	19.4	9.5	30.6	46.8	113.2	37.9
さば	0.0		0.1	1.5	3.6	10.0	66.5	81.7	21.3
まあじ	1.9	0.1	3.9	7.2	8.7	21.8	16.3	60.0	118.9
ふぐ類	0.3	0.0	7.0	22.0	5.1	15.8	9.4	59.6	73.8
さわら・さごし	1.8	0.5	0.3	0.2	0.9	9.4	8.8	22.0	97.8
とびうお	1.9		7.5	2.2	0.2	2.0	0.8	14.7	22.2
まだい	0.1		2.5	0.7	0.8	3.5	2.5	10.1	39.7
その他	3.6	0.0	5.7	7.4	2.2	27.2	12.8	58.8	110.6
合計	12.7	0.7	120.8	160.1	43.2	238.2	410.6	986.2	769.3
まき網									
まいわし	—		845.6	0.1	—	—	—	845.7	6.0
さば	—		261.4	19.8	—	—	—	281.2	100.6
かたくちいわし	—		132.5	—	—	—	—	132.5	—
まあじ	—		—	46.3	—	—	—	46.3	42.1
うるめいわし	—		41.6	0.1	—	—	—	41.6	12.5
その他	—		0.7	25.8	—	—	—	26.5	40.5
合計	—	—	1281.8	92.0	—	—	—	1373.8	201.7
底びき網・ごち網									
あまえび	12.9	54.3	—	9.3	4.0	—	—	80.5	82.2
にぎす	7.6	30.0	14.0	3.9	1.0	3.2	—	59.6	68.0
あかがれい	10.1	5.9	4.3	25.6	0.6	—	—	46.5	25.3
まだら	1.4	0.9	0.6	33.1	0.6	—	—	36.5	41.1
ふぐ類	0.2	0.2	3.4	13.7	0.0	—	—	17.5	26.6
その他	22.3	21.0	3.6	53.5	8.2	7.1	—	115.8	138.2
合計	54.5	112.3	26.0	139.0	14.4	10.3	—	356.5	381.4
刺網・釣り・その他									
べにずわいがに		33.2	16.4	2.6	—	—	—	52.2	93.5
いわがき				21.5	—	—	0.0	21.5	21.7
やなぎばちめ(ウスマル)	0.0	0.3	0.7	12.8	0.0	0.1	0.3	14.2	20.6
まだい	0.1	0.0	0.1	9.8	0.1	1.1	0.1	11.4	20.1
さざえ			1.5	0.2	1.5	3.8	1.8	8.8	10.0
ぶり	0.0		2.1	5.4	0.3	0.0	0.0	7.8	7.2
まだこ	0.0	0.0		0.4	0.8	2.3	3.5	6.9	5.9
がんど			0.7	5.1	0.9	0.1	0.1	6.9	4.7
その他	5.0	2.4	10.9	32.3	2.0	5.3	7.4	65.3	96.2
合計	5.1	36.0	32.3	90.2	5.5	12.8	13.3	195.0	279.9
小型いか釣り									
するめいか20入り		7.7	3.0	0.6	0.8	0.2	—	12.4	4.0
するめいか25入り		25.4	13.5	10.5	6.1	0.4	—	56.0	54.6
するめいか30入り		14.9	8.4	17.2	8.8	0.6	—	50.0	179.8
するめいか40入り以上		1.9	1.5	3.9	2.4	1.2	—	10.8	124.9
合計	—	49.9	26.4	32.3	18.1	2.4	—	129.1	363.3
総計	72.3	198.8	1487.3	513.6	81.2	263.7	423.8	3040.7	1995.6

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

白山丸イカ釣体験航海を開催しました!

■ 5月27日に能登町小木港で「イカす会」が開催されました。イカす会は能登小木港スマイルプロジェクトによる取組みで、全国有数のスルメイカの水揚げ港である小木港と能登の人・地域・産業を元気にするためのイベントです。この中で水産総合センターの調査船白山丸はイカ釣体験航海を行いました。

■ 乗船いただいた皆さんには、能登町沖でイカ釣漁業を体験してもらいました。航行中には船内でイカ釣漁業の解説ビデオを見たり、甲板上の水槽のスルメイカを触ったりしてもらいました。さらに能登海上保安署の取締船の高速航行や放水パフォーマンスもあり、出港から入港までの1時間があっという間の盛りだくさんの内容でした。体験航海を目当てにイカす会に参加された方も多く、県内各地の他、遠くは群馬県から来られた方もいました。海の開放感からか自然と感想を漏らす方もあり、「県でこういう仕事をしているとは知らなかった。子供の将来の仕事としても面白そう」、「海、船、漁業に親しむとても良い機会で子供たちも喜んでいる」といったご意見をいただきました。陸上交通や飛行機が発達した現代では、多くの日本人は船に乗る機会がほとんどなく、このことが海や漁業への関心を低下させる要因になっているように思います。乗船された方の感想や笑顔で下船される様子から、私たちの思いや意図が十分に伝わったと感ずることができました。

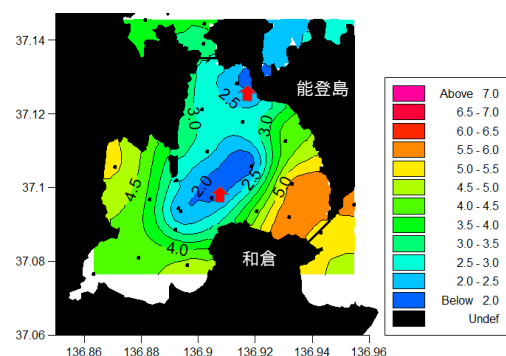
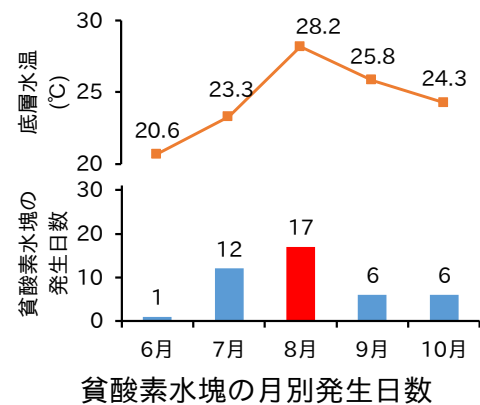


七尾湾の環境を測る (3月10日公開セミナー講演概要)

■ 七尾湾では海域の特性を利用して古くからカキ養殖が、最近ではトリガイ養殖が営まれています。これらの養殖は、夏場の高水温や貧酸素水塊(水中に溶け込んでいる酸素濃度が極めて低い水の塊)の発生などにより成育に影響を受けることがあります。そこで、2016年に湾内で海洋観測を行い、貧酸素水塊の発生状況について調べました。

■ 観測の結果、貧酸素水塊(2.1mg/L以下)は6月下旬から確認され、8月にはひと月のうち17日も確認されました(上図)。また、8月中旬には広い範囲で確認されました(下図)。この時期は養殖場の海水温が高くなることから、バクテリアによる海底の泥の有機物分解が活発化し、酸素消費が増大したことが主な生成要因と考えられました。このほか、この調査によって、養殖場での海水の流れが弱まる時に発生し、流れが強まるときに解消することがわかりました。

■ 当センターでは、こうした観測により把握した貧酸素水塊の発生状況を「七尾湾貧酸素情報」として漁業関係者に報告し、安定生産に役立てていただいています。



底層の溶存酸素量分布(8月17日)